

○ 概況

●産業大分類別に売上（収入）金額（以下「売上高」という。）をみると、「卸売業，小売業」が487兆582億円と最も多く、次いで「製造業」が400兆9098億円、「医療，福祉」が118兆8557億円などとなっている。

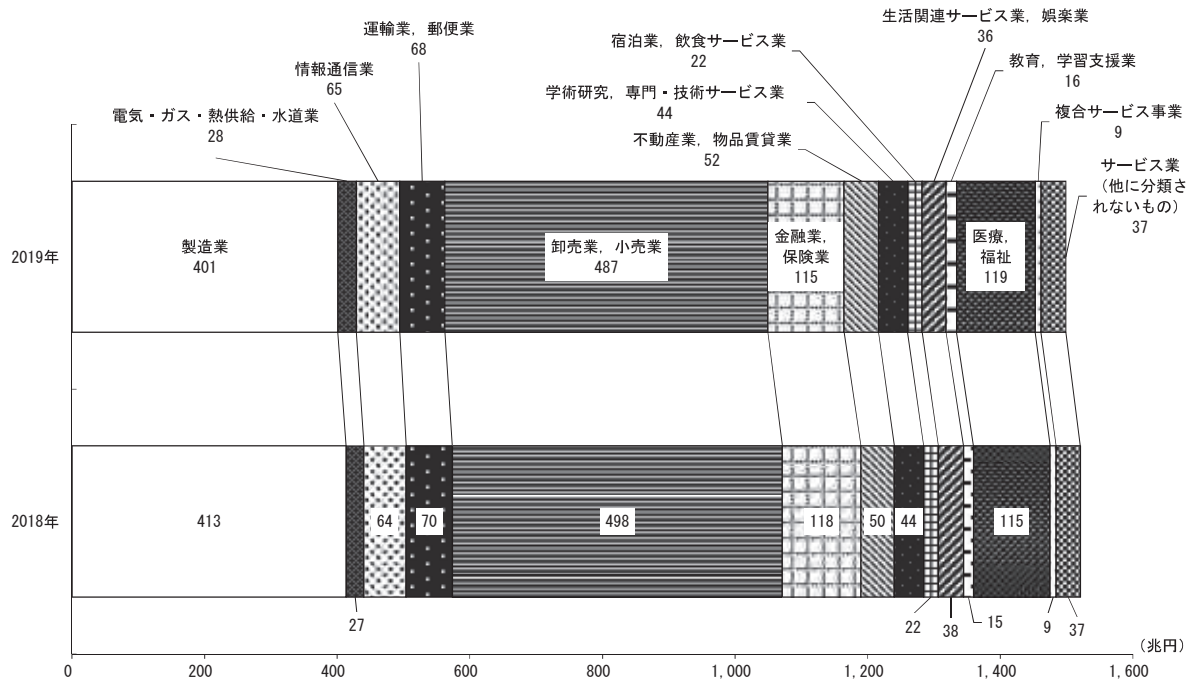
これら上位3産業について2018年と比較すると、「卸売業，小売業」が2.2%の減少、「製造業」が3.0%の減少、「医療，福祉」が2.9%の増加となっている。

表 産業大分類別売上高

産業大分類	売上高		
	2018年 (百万円)	2019年 (百万円)	増減率 (%)
製造業	413,280,766	400,909,799	▲ 3.0
電気・ガス・熱供給・水道業	27,031,353	27,875,477	3.1
情報通信業	63,591,218	65,446,063	2.9
運輸業，郵便業	69,564,904	68,254,760	▲ 1.9
卸売業，小売業	497,980,974	487,058,190	▲ 2.2
金融業，保険業	118,348,463	114,908,572	▲ 2.9
不動産業，物品賃貸業	50,468,271	51,786,521	2.6
学術研究，専門・技術サービス業	44,097,503	43,622,680	▲ 1.1
宿泊業，飲食サービス業	22,257,902	22,145,539	▲ 0.5
生活関連サービス業，娯楽業	37,651,943	36,073,892	▲ 4.2
教育，学習支援業	15,287,542	15,627,594	2.2
医療，福祉	115,499,066	118,855,729	2.9
複合サービス事業	9,035,677	8,771,293	▲ 2.9
サービス業（他に分類されないもの）	36,617,403	37,488,257	2.4

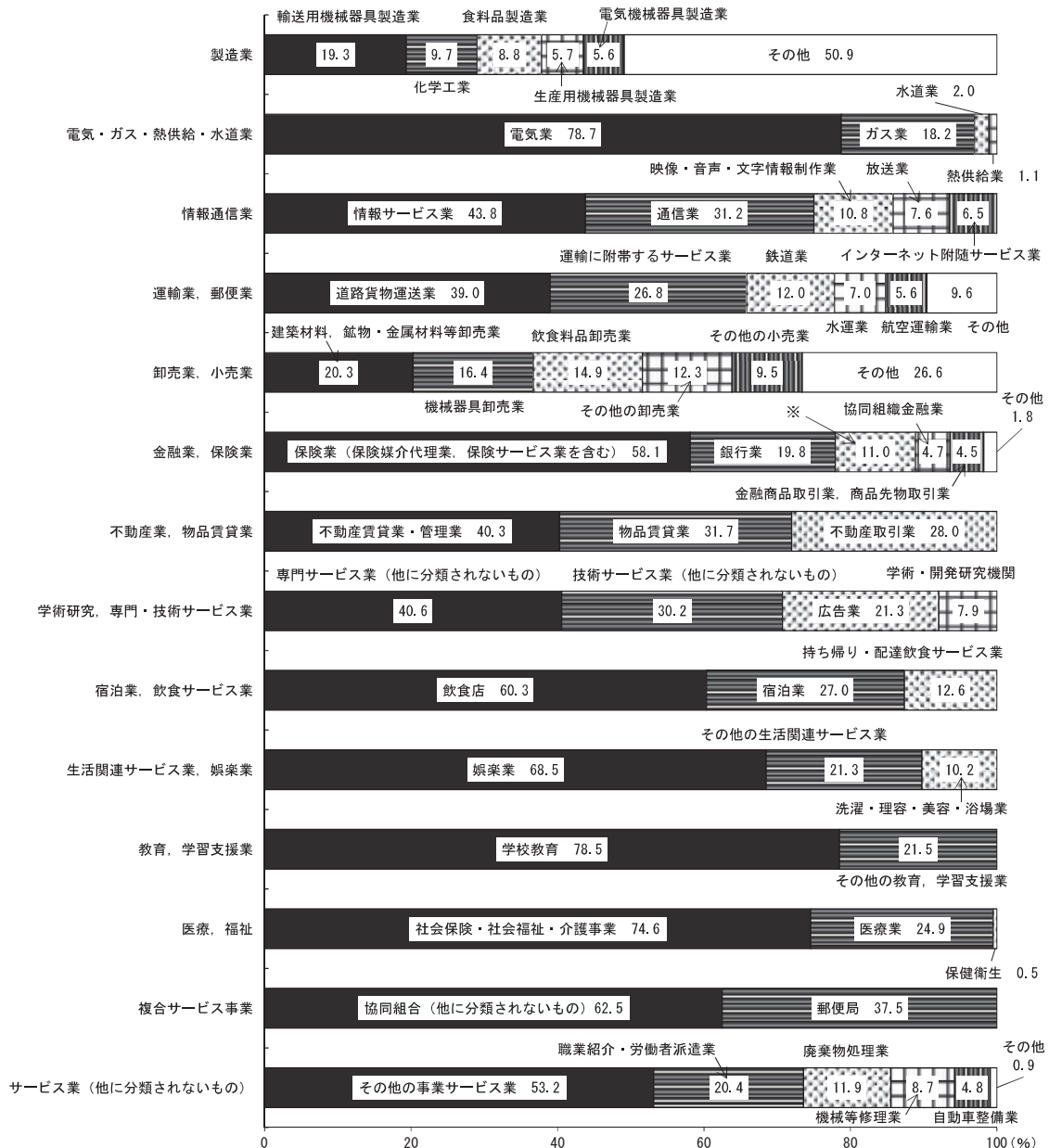
注：製造業に属する企業の一部については、同時一体的に実施した工業統計調査からデータ移送を受けており、一次公表では工業統計調査の速報値を用いている。

図1 産業大分類別売上高の推移



● 産業大分類別に中分類の売上高構成比をみると、「製造業」では「輸送用機械器具製造業」（19.3%）が最も高く、「電気・ガス・熱供給・水道業」では「電気業」（78.7%）、「情報通信業」では「情報サービス業」（43.8%）、「運輸業，郵便業」では「道路貨物運送業」（39.0%）、「卸売業，小売業」では「建筑材料，鉱物・金属材料等卸売業」（20.3%）などとなっている。

図2 産業大分類別の中分類売上高構成比



注：各産業大分類における上位5分類までを表示し、それ以外の分類については「その他」として統合している。なお、「その他」には分類不詳を含まない。

注：グラフ中の省略標記は以下のとおり

※：貸金業，クレジットカード業等非預金信用機関

注：製造業に属する企業の一部については、同時一体的に実施した工業統計調査からデータ移送を受けており、一次公表では工業統計調査の速報値を用いている。